

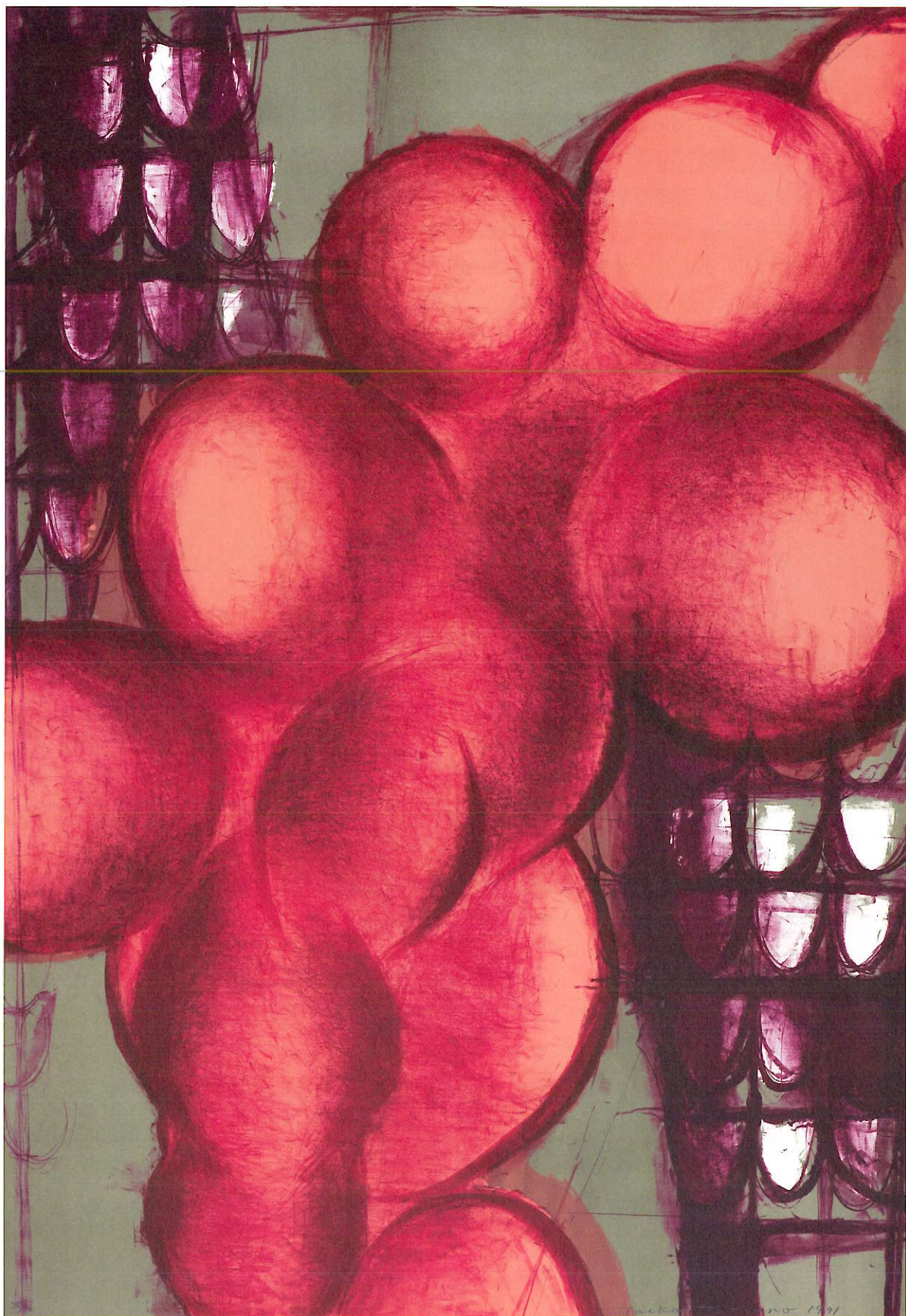
もうひとつの物語

— 女性美術家たちの100年 —

2025.7.26|土|—11.3|月・祝|

世田谷美術館 SETAGAYA ART MUSEUM

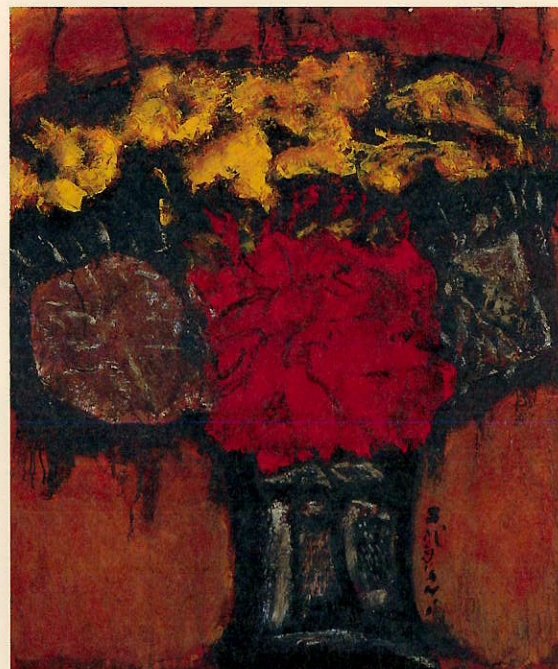
主催 世田谷美術館（公益財団法人せたがや文化財団） 会場 世田谷美術館2階展示室 開館時間 10時～18時（入場は17時半まで）
休館日 毎週月曜日 *8月11日（月・祝）、9月15日（月・祝）、10月13日（月・祝）、11月3日（月・祝）は開館、8月12日（火）、9月16日（火）、10月14日（火）は休館
観覧料 7/26（一）9/30（一）一般 2,000（1,600）円、大高生 1,500（1,200）円、65歳以上/中学生/障害者 1,000（800）円（10/1より観覧料変更）一般 2,200（1,800）円、大高生 1,700（1,300）円、65歳以上/中学生/障害者 1,100（900）円 *小・中高大学生の障害者および障害者の方の介助者（当該障害者1名につき1名は無料。証明書を提示のうえ、お申し出ください。*）（内は20名以上の団体料金）
*世田谷区内在住・在学の小・中学生は土・日・祝・休日は無料。*同時開催の企画展チケットで本展をご覧いただけます。



もうひとつの物語

— 女性美術家たちの100年 —

戦前、東京美術学校(現・東京藝術大学)に女性の入学が許されていなかった時代のこと。本格的に美術を学べる教育の場がごく限られる中、美術の道を志し、「女流画家」として歩んだ女性たちがいました。戦後になり、女性がアーティストとして活躍することは一般的になっていきましたが、一方で、美術館のコレクションや展覧会においてマイノリティである状況は今なお続いています。今年2025年は、1926年の昭和のはじまりからちょうど100年を迎えます。昭和・平成・令和と時代が流れ、価値観が変化したことで、彼女たちの作品や生き方も、当時とは異なる視点で眺めることができるのではないのでしょうか。本展では、美術の世界の「もうひとつの物語」—— 女性美術家たちの物語を、当館コレクションより紹介します。戦前・戦後に先陣を切った画家たちから、現在活躍を続ける作家たちまで、彼女たちの作品と生きざまが、現代を生きる人々へのエールとなることを願います。



三岸節子《花》1990年(島田元義コレクション) ©MIGISHI



福田美蘭《FINE VIEWS》1988年



井上玲子《タイムトンネル'92(遊遊)》1992年
撮影:上野則宏



草間彌生《君は死して今》1975年 ©YAYOI KUSAMA



坂上チヨキ《古代魚の夢》1988-1989年

コーナー展示

奈良原一高 〈Tokyo, the '50s〉より

同時開催企画展

野町和嘉 — 人間の大地

7月5日(土) - 8月31日(日)

自然と魂 利根山光人の旅 — 異文化にみた畏敬と創造

9月13日(土) - 11月9日(日)

次回収蔵品展

ミュージアム コレクション 特別篇 開館40周年記念

世田美のあしあと — 暮らしと美術のあいだで

2026年2月21日(土) - 4月12日(日)

世田谷美術館 SETAGAYA ART MUSEUM

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2 TEL.03-3415-6011(代表) <https://www.setagayaartmuseum.or.jp/>

交通案内

- 東急田園都市線「用賀」駅下車、北口から徒歩17分、もしくは美術館行バス②「美術館」下車徒歩3分
- 小田急線「成城学園前」駅下車、南口から渋谷駅行バス③「砧町」下車徒歩10分
- 小田急線「千歳船橋」駅から田園調布駅行バス④「美術館入口」下車徒歩5分
- 来館者専用駐車場(60台、無料): 東名高速道路高架下、厚木方面側道400m先。美術館まで徒歩5分。

*ご入館に際しては感染症予防のため、手指消毒にご協力ください。館内で十分な距離を保てない場合がありますので、他のお客様へのご配慮をお願いします。*展覧会の会期等が、急遽変更や中止となる場合もございます。会期中の最新情報は、美術館ウェブサイト等でお知らせします。

